

Newsweek

ニュースウィーク日本版



OYAIZU HIROSHI

小柳津広志

株式会社ニュートリサポート 代表取締役

顧客満足度の高い医療の実現を目指し東大名誉教授が選んだセカンドライフ

東京大学農学部や東京大学生物生産研究センターで教授を務めた後、62歳で早期退職して株式会社ニュートリサポートを創設。

「人や動物の体の中に棲む微生物である細菌や真菌、ウイルスの制御については世界中の誰よりも詳しい」と自負する小柳津氏が第二の人生で目指すのが、自らの知見を活かした“顧客満足度の高い医療”の実現だ。



不調改善の鍵を握る腸内の微生物

東京大学の教授時代は、人気テレビ番組の「世界で一番受けたい授業」などに出演して話題になるなど、微生物研究の権威として知られた小柳津氏。大学を早期退職後に自らの会社を設立し、プロ顔負けの趣味でもあった料理を振る舞うレストランを開業。そこで多くの人が様々な病気に悩まされていることを知り、自身が長年にわたり研究してきた微生物学をベースに、人の病気を改善・予防するメカニズムについての研究をスタートさせた。

当初は小柳津氏が独自に開発したサプリメントをレストランの客に無償で配布。成分はすべて食品由来のこのサプリメントは2018年に製品化され、現在は年間で5億円の売り上げを誇る大ヒット商品に。さらに2020年には「花粉症は1日で治る!」、「コロナに殺されないうたった1つの方法」といった著書を立て続けに出版。どちらも数万部を売り上げる“話題の書”となっている。



パンデミックに対抗する有効な一手に

そんな小柳津氏の次なる挑戦が、同社が開発したメソッドを社会へと実装し、日本のみならず世界中に広めることだ。「サプリメントでは広く医療の現場で使ってもらうことはできませんから、今後は製薬会社などと連携して治験を行い、医薬品としての承認を目指します」と小柳津氏は話す。

「具体的には、コロナウイルス感染症やインフルエンザなどを抑え、感染した場合も短期間で症状を平癒できる強力な治療薬を見つけています。しかも食品由来なので副作用など安全面の問題もありません。これを少しでも早く承認してもらい、ワクチンを代替できる予防・治療薬として世界に広められればと考えています」

従来の西洋医学の薬による治療では、ほぼすべてのケースで何らかの副作用を覚悟しなければならない。「結果として病気や症状は改善しても顧客満足度は低くなり、そこに現在の医療の課題がある」と小柳津氏は指摘する。

「私が開発したメソッドは、簡単にいえば人がもつ自然治癒力を、正しい理論で最大化するというもの。世の中には免疫を上げるとされる食品やサプリメントなどがたくさんありますが、多くはそのメカニズムをきちんと説明できていませんし、かといって現在の医療では副作用が出てしまう。例えば便秘に悩む人が下剤を使い続けると、抵抗性が出て難治性の便秘になってしまいます。一方でオリゴ糖を効果的に摂れば便秘は簡単に改善できると言われています。また、体の中に入ったウイルスを殺すのは抗体ではなくキラーT細胞ですから、この細胞を増やす食品を摂ればいい。そうしたメカニズムを理解して治療に繋げていくことで、あらゆる病気で副作用のない顧客満足度の高い医療が実現できると確信していま

す」

また、近年の日本では発達障害と診断される人が増えているが、その原因の一端には抗生物質が原因となって起こる炎症反応があると小柳津氏は言う。

「抗生物質が原因となって起こる炎症反応を腸内細菌の働きでリカバリーするメソッドも我々は開発していますので、そちらも医療の現場で治療行為として使えるように承認を目指したい。現在の医療と敵対するのではなく補完し合えるような存在として、医療の世界に参加していければと考えています」

さらには運営するカフェやブログでの情報発信を通じて、正しい糖質制限食や健康に良い食事の摂り方など、体の不調に悩む人や健康を維持したい人々に向けた啓蒙活動も積極的に行っていく。

「そうした活動を通じて、日本の医療費の問題の解決に少しでも貢献できればと思っています。また、当社が開発した食品には体内に残る老化細胞の除去が期待できるものもあるので、高齢化に悩む日本における老化予防のスタンダードを目指した開発なども進めていきたいですね」

世界を襲うパンデミックのゲームチェンジャーになり得る、元東大教授の大発明。顧客満足度の高い医療の実現を目指す、小柳津氏の壮大なチャレンジに期待したい。

小柳津広志

株式会社ニュートリサポート 代表取締役

<https://nutrient-support.co.jp/>

※ 本サイトに掲載している情報は取材時点のものです。